

静岡分苑だより

2023 冬号



富士川河川敷 (2023年 1月 1日撮影)

新玉の年の始めのよろこびは

不二の高嶺の夢にぞありける

富士ヶ嶺の清き姿を仰ぎつつ

わが神国の尊さおもふ

東海の空に輝く不二ヶ峰は

日の出の国の鎮めなりける

出口王仁三郎



このはなざくらが発見七十年の佳節に

来る三月二十六日、教主さまに静岡分苑設立十周年記念春季大祭にご親教いただけることとなりました。また、祭典後には、教主さまにご面会を賜りたくお願い申し上げる次第でございます。

教主さまは多くの人々が混乱し不安を抱いている現代こそ、「大本の教えをもっと堂々と胸を張って宣べ伝えるべき時」と、お示しくださりました。本年度の教団方針にもありますように、今私たちは、子供にも孫にも友人知人にも、大本の教えを堂々と宣べ伝えていきましょう。

今年、三代教主さまがこのはなざくらを発見・ご命名されて七十周年の佳節の年です。

また静岡分苑の建物が完成した平成二十八年は、本宮山山頂の月山不二の頂きに「富士の霊石」が奉斎され、木の花咲耶姫命のご神霊が永久に綾の聖地にお鎮まりになられて七十周年の佳節の年でした。

静岡分苑が富士山の麓に立ち上がり、このはなざくらをご下付していただき、この佳節の年に教主さまにご親教頂けるのは、御神意を感じます。

(谷田新樹 文)

【お詫びと訂正】

— 大本本部内事課から、教主さまからご下付して頂いたお茶杓について —

「親木、子木、孫木と三代のこのはなざくらのお茶杓が揃ったと発表しましたが、取り木という方法で苗木を育てているので、「三代教主さまが発見、ご命名されたこのはなざくら」そのものです」、というお手紙を頂きました。

「天恩郷、梅松館、長生殿の三カ所のこの花桜のお茶杓が揃いました」と訂正させていただきます。

令和5年1月8日

発行者 大本静岡分苑

〒421-3306

富士市中之郷小池下2353-1

谷田 新樹

直心会 報告

○女性祭員（十二月月次祭）

今年最後の月次祭を直心会当番で祭員ご奉仕させていただきました。
今回初めての献饌で、個々の練習から始まり、前日の夜、当日の朝と練習をし、皆緊張しながら臨ませていただきました。
祭務部長の小谷さんには、前日、当日だけでなく、ほかの日にも教えていただき、とても心強く、ありがたかったです。

○長生殿 献勞奉仕（十一月十九日）

静岡から6名参加させて頂きました。
障子のはたきかけ、畳の雑巾がけを午前中に。午後からは草取り、枯れ葉集め等させて頂きました。天候にも恵まれ、気持ちの良いご奉仕でした。

（斎藤雅美 文）



○絶品直会

女性祭員の月は、毎年恒例で男性に直会を作っていました。井村浩仁朗さんのリードで、今年は炊き込みご飯でした。とてもおいしかったです。



道の友垣



私自身、令和四年は精神的に体調が優れない時期があり、特派の前田先生や家族、分苑長の谷田さんにも相談させて頂き、現在は通常の生活に戻れることが出来ました。

福本 一樹さん
(ふくもと かずきさん)
富士分所所属
写真向かって左端

色々な人に支えて頂き、今の自分があることを再認識出来た一年でした。本当にありがとうございました。
その中で毎日家族で朝拝を行うと決め、松の水を新しいものに替え、お給仕を準備し、尺と祝詞を準備し行っています。その中で気づいたことが、家族で朝拝をすると、祝詞を読む速度や息遣いなどで皆がどんな感じなのか少しわかっ

たような気がします。また朝拝を行うことで私自身気持ちを整理することが出来て来たと思います。今まで感じたことがない気持ちなのでこれからも続けて行きたいと考えます。
色々あった一年でしたが家族無事に過ごすことが出来た意味では実りのある一年になったと思います。心も体も健康に楽しく笑える人生になればと日々思う今日此の頃です。



🌸 昨年にご家族で分苑の大掃除や月次祭のご奉仕をされました。

青年部より

今年の青少年特別奉納は、5月4日のみろく大祭と、8月6日の瑞生大祭の時に行われます。
AIZEN 作品コンクール（書道、写真、工芸、動画）と、少年絵画コンクールの締め切りは4月20日です。みろく大祭期間中に展示予定です。例年より締め切りが早いのでご注意ください。詳細は青年部までお尋ねください。
(谷田淳子 文)

たかね会より

斎藤雅美さん（富士）、谷田淳子さん（志太）が助教補の資格を取得されました。
今年度も分苑（第二土曜日）、安国分所（第四土曜日）でお稽古の予定です。また若宮先生の静岡でのお稽古を別日に再開させていただきます。（一月～三月は大祭に向けた伶人中心の稽古となります）。